

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	令和2年1月22日(水) 15:00~17:00
会 場	北広島市役所 3階 3D会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、武者加苗委員、天羽浩委員、桂裕章委員
欠席委員	谷本雄司委員
市出席者	川村企画財政部長、佐藤総合計画課長、熊谷主査

1 開会

委員の過半数が出席していることから、会議は成立していることを確認

2 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、桂委員を令和元年度第6回推進委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3 内容

(1)~(6) 基本構想の目的、将来目標人口、ボールパーク構想と連携した新たな価値の創造、土地利用、地区のまちづくり、重点プロジェクトについて

北広島市(熊谷)：(説明)

鈴木委員長：何か御意見等があればお願いしたい。

【ボールパーク構想と連携した新たな価値の創造の図について】

A委員：資料1の2ページ「ボールパーク構想と連携した新たな価値の創造」について、この絵は凄く良いが、四角の項目の順番は何か意味があるのか。意味を持たせて、横との並びで共通点が多い順に並べた方が良い。その意味では、例えば交流と定住の間に交通と、このあたりを固める方が自然かと思う。逆に、食と文化をつなげる、あるいは横同士に置く。もし何か意図があるのであれば教えていただきたい。

事務局：余り意味はなく、重要度や注目度の高いものを上にしたり、意味合いの近いものを近づけたりと考えてはいたが、今後、並びを検討する。

委員長：上下という重要度というよりも、近いもので固めるのが通常のパターンだと思う。そうすると、例えば観光というのは産業とも近く、交通とも関わってくるというように、様々な考え方が出てくるところもあり、ある程度意味を持った並びの方がより良い。内部で検討いただければと思う。

事務局：1番の「まちづくり」という表現は無い方が良いかもしれない。まちづくりの中に産業、経済があり、広い意味を持つ「まちづくり」という言葉を抜いて、うまくまとめた方が良い。

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

A委員：まちづくりだけ同レベルの項目ではないように感じるため、変えた方が良い。一番上という位置は良いと思うが。図の上の本文の順番とは合っているのか。「市民生活」と本文に書いてあるが、図にはない。

委員長：近いもの同士を並べるという方が良いと思うため、検討いただきたい。

【現在の総合計画(第5次)の将来目標人口について】

B委員：資料1の1ページ目に将来目標人口6万人と記載されているが、現在の第5次総合計画では、目標値が6万1,500人となっていると思うが下げたということか。

事務局：第5次総合計画の策定当初は6万1,500人で、中間見直しで6万に下方修正したという状況である。

【将来目標人口、合計特殊出生率、子育て世代の定住促進について】

B委員：将来目標人口に関わる合計特殊出生率について、全国はもちろん、全道、札幌市も含めて落ちている。2017年では、札幌で1.16、全道が1.29、全国は1.4、平成26年の北広島市は1.09とかなり悪い。出産が可能な年代の方々が移ってこられると人口が増えると考えられるが、そのあたりの総合計画上の表現について、お聞きしたい。

事務局：将来目標人口の欄には、具体的に年代等を書いていない。これまでの取組で少しずつ現れてきているのが、全体的に65歳以上の老年人口の割合は増えている一方、20代後半から30代、40代ぐらいが持ち直し、併せて14歳までの年少人口が若干持ち直している。子どもがいながら市外から転入してきた方と、そのまま市内に住んで、市内ですらに出産する方も徐々に増えてきている印象はある。

事務局：前回までご議論いただいた素案の中の基本計画内の「居住環境の充実」という部分では、子育て世代の定住促進に向けた取組や、住み替えの支援体制の構築について記載している。また、資料1の13ページ「地区のまちづくり」で、北広島団地地区に特化してはいるが、高齢化率が約43%と最も高い特徴があるため、高齢化率をできるだけ下げて、子育て世代の定住を促進するということを記載はしているが、基本計画の重点プロジェクトの書きぶりについても、子育て世代の定住促進に関する書き込み等を検討したい。

C委員：将来目標人口6万人を算定するに当たり、市の推計は出されたのか。6万人の根拠は、どのようなものと考えているか。

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

事務局：市としても人口は推計したが、基本的には、社人研推計と殆ど変わらないことになってしまう。ただし、現在の本市の人口実績は、平成30年に出された社人研推計よりも1,000人程度人口の実績が多い状況となっている。社人研推計は5年ごとの国勢調査の数字をベースに推計しており、ボールパーク等の大きな要因を当然加味していない。市の人口推計においても、基本的には、社人研より1,000人程度多い状態を保ち平行線で減っていくのが通常の推計結果である。そのような中でも、ボールパーク構想による波及効果等や、過去の人口の最高値(平成19年：61,199人)の実績等を加味して6万人という目標を立てた。

事務局：目標人口6万人と言いながら、今の58,000人ちょっとから2,000人増やせばいいという話でなく、今までの通常の自然動態と社会動態が今後も続いていく中で、その状況に更に上乗せして10年間でトータル8,000人増やそうということが裏に隠れており、とても大きな話をしている。本市は、平成19年に6万1,199人の人口実績があるまちであり、人の居住人口数としては許容可能であるだろうとし、社会基盤上も問題ないという考え方だ。

C委員：資料3の6ページでは、0～14歳の割合は、H27の12%から減っていき、R27では8.9%、65歳以上の割合は、H27の29%から増えていき、R27では45.7%である。このように急速に少子高齢化が進んでいくことが想定されているが、これと将来目標人口6万人の説明とは全く相容れない。益々少子高齢化が進んで、人口が減っていくという非常に説得力のある資料になっているが、将来目標人口6万人の説明は、影も形もなく違和感がある。

事務局：資料3は、これまでの推移、実績を現状としてお示ししている参考資料である。確かに生産年齢人口、年少人口が減ってきているという実績と推計であるが、例えば生産年齢人口の全国共通的な弱点は、10代後半から20代前半が進学・就職で外に出てしまうことであり、まだ解消できていない。その目減り分が結構大きい。逆に、それよりも少し上の世代が入ってきている状況である。生産年齢の中でも、少しずつ入れ替えとなってきた現状だ。

C委員：結局、実際のところは、高齢化が進んで人口が減っていく部分を上回るボールパーク効果があるということか。

事務局：そのような立てつけにしている。現状を踏まえつつ、それをまた回復させようという目標の計画になっている。

B委員：人口のキャパシティについて、都市計画上、土地利用計画上の収容人口は見積もりが可能か。市街化区域内の未利用地の空き地も含めた面積はかなりあると思う。

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

事務局：約7万人まで入ると推計上出ている。可住地面積としては、住宅の横の駐車場も可住地面積として含まれることになり、実際は最低でも6万2,000人程度まで住めるが、理屈上は7万人までとなる。まだまちの中の土地に余裕があり、市街化区域の拡大というのは、それらを埋めてからの議論になる。

B委員：給水可能人口は押さえているのか。

事務局：計画給水人口は7万人弱である。夕張のシューパロダム工事の際、当時人口9万人弱を目指そうとしたが、下方修正した状況である。ボールパークが開業しても、新たな設備投資は不要で、その計画水量の中で可能という計算にはなっている。

委員長：人口がかなり重要なポイントになり、様々なところで議論になるかと思う。市推計というのは、最新のデータの状況を使って、社人研で使っているコーホート要因法と同じことを、減少が少ない実績値でもう1回推計し直したという意味か。目標人口を論理的に求めようと思っても、かなり厳しいという印象がある。

事務局：市の推計でも一般的な人口推計方法であるコーホート要因法を用いており、これは、過去の実績に基づいて、今の市の年齢構成、自然動態、社会動態等により算出するものであるため、過去の実績に当然ボールパークのような要因はない。通常の方法で算出して、6万人という人口を導くためには、例えば昭和時代や平成初期の人口が急激に増えている時代の自然動態や社会動態の率を用いなければならなくなる。そのため、6万人を目指す考え方として、単純に社人研の推計に8,000人増やす必要があり、ではその8,000人をどのような施策で埋めていくのかという説明の方がわかりやすいものと考えている。

委員長：私もそのような考え方の方が良いと思う。どのような施策によって何人増えるかというのを全部合計したら、この目標人口6万人に到達するというあたりは聞かれる可能性がある。自然増減と社会増減のバランスで考えると、明確に自然減でどんどん減っていくということは、それをかなり上回る社会増となり、相当な数だ。

事務局：第4次総合計画までは「将来人口」と書いていたが、第5次改訂版から「将来目標人口」という表題にした。市長の意向もあり、まちとしてどこを目指すのかを明確にしながらまちづくりを進めたいという意図もある。ボールパークという大きなプロジェクトがある中に、推計で現実味を帯びた数字、例えば5万7,000人をキープと出すと、意志の表れとしては弱い。一方で数字的な理論は説明できなければいけないものと考えている。

委員長：目標であるということは、ある意味、努力してその目標に向けて頑張ろうという意図も強いということであると捉えることができた。ただし、この目標6万人に基づいて

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

各種施設の規模を設計するなど云々という話になってくる場合には、かなり注意が必要であると思う。目標としてこうしていくのだという部分と、設備投資の部分は、別に取り扱う必要がある。そのような意味で考えれば、目標人口に強い論理的根拠を求める類のものではないのかなという印象を受ける。

A委員：将来目標人口6万人というのは非現実的で、現実的なところで5万5,000人ぐらいが良いかと思う。理想的な目標にするという議員も一定数おられるのであれば、移民や外国人の話は避けて通れず、そういうことをもっと施策として押し出していくのかどうかが見えてこない。5万5,000人ぐらいであれば、現状の記述で良いと思うが、10年間で通常推計より8,000人を増やすというのであれば、増やすための施策等について、もう少し記述があった方が良いと考える。

事務局：改めて整理していく。

【将来目標人口と定住人口・関係人口・交流人口の関係について】

B委員：北海道も関係人口と交流人口の大事さを訴えている。関係人口と交流人口をいかに引っ張ってくるか。一遍に8,000人を増やすのは無理だが、10年で毎年800人ずつ増やす方法を練っていただければよい。例えば、交流人口として、本市に子どもたちを連れてきた家族が、北広島市は良いまちだなと感じていただき、ここに移住しようかなんていう話も出てくるかと思う。そのため、何もなく突然移住というのは難しい。

事務局：地方創生の総合戦略の第1期が間もなく終わり、第2期について国が方針を示しており、関係人口については、定住になる前のきっかけづくりとして実際に謳われ、今後重要なキーワードとなるだろう。これまでの素案の中で、関係人口の拡大も謳っており、例えば企業版ふるさと納税や東京北広島会等、間口をどんどん拡大していく取組をしていきたいと考えている。

事務局：1ページ「将来目標人口」の最後に記載している「様々な波及効果」の部分をもう少し丁寧にイメージしやすくし、未利用地の活用や子育ての住環境等を含めて充実させ、目標に向かうということを書くように調整する。妊娠、出産、子育てに対する支援を行いますということは書けるが出生率を向上させますというのは、現在の社会情勢からは、やはり書きづらい部分ではある。

B委員：重点プロジェクト部分に子育て支援等について書いているため、この記載で良いものとする。

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

【重点プロジェクトについて】

B委員：第5次総合計画とは異なり、今回の重点プロジェクトは一覧になっていてわかりやすい。第5次は、重点プロジェクトのページ数も多く、何が重点なのかわかりづらかった。私は、第5次の時も総合計画推進委員としていたが、逡巡した部分であった。また、重点プロジェクトに記載されている産科の誘致は、とても難しいことであると考え。このようなものは、広域的に圏域で取り組んでいくべきものと考え。

事務局：市でも産科医院の開設に係る補助制度を設けたが、開設後に採算がとれるかという点で難しく、現実的には非常にハードルが高いというのが担当部署の実感だ。お金の問題だけではないが、市がいくら補助金を出しても、やはり一生補助金を出すということにはならないため、難しいことではある。

A委員：将来目標人口は、ある意味数字の理論であるが、質の評価として、重点プロジェクトの成果指標に掲載されている「北広島市での住み良さ」の指標というのが重要であると考え。最新の数字は載っているが、過去と比較してどのような状況か。

事務局：平成30年が記載のとおり75.4%、平成26年が76.8%、平成20年が73.5%であるため、平成20年から一度上がったが、その後若干下がったという状況である。

A委員：人口数値に隠れがちだが、同じくらい重要な指標であると思うため、仮に将来目標人口を達成できなかったとしても、この意識調査の結果が上昇したのであれば、総合計画の成果としては悪くないものと思う。なお、目標値が「上昇」だけであれば、例えば0.1%上がっても上昇であるため、具体的な数値目標を設定すべきと考え。

事務局：検討させていただく。

C委員：14ページの上から7行目、「次の重点プロジェクトの推進により、関係人口、交流人口、定住人口の増加」とあるが、成果指標では定住人口だけを言っている。関係人口や交流人口は増えても、それは成果とみなさないということか。

事務局：関係人口と交流人口については、分野別計画案の成果指標に入れようと思っており、人口増加プロジェクトでは定住人口、交流人口、関係人口を全てまとめて人口増加としている。交流人口と関係人口が増加すれば、結果的に定住人口も増えるという位置づけで、定住人口のみを成果指標にしてしまっている。

C委員：基本的に100万人が試合を見にきたところで、定住人口は増えないのではないかと。目標達成のためのプロジェクトとしては書き方が矛盾している気がする。

事務局：何回か交流人口として本市に足を運んでもらうことによって、このまちに住もうとい

令和元年度第6回北広島市総合計画推進委員会 会議録

う意識の醸成にはなるかもしれない。この重点プロジェクトの書き方が、定住人口を目指すためにどうするのかという書き方になっていないため、表現方法や構成は整理する。成果指標も、観光入り込み客数の現状や目標等、関係人口、交流人口についてもここに載せた方がわかりやすいかもしれないため、重点プロジェクト全体の構成を改めて検討する。

C委員：二つの輪の左側は定住人口の効果があるものを書いていると思うが、右側は何かよくわからない。

事務局：左側が定住人口に近く、右側は交流人口に近い。真ん中は定住に向けた都市機能の整備もあり、外から来てもらう人のためのインフラやアクセスの整備等、どちらにも関係している。

事務局：分野別計画の中で、観光の人口を増やす等書いているが、ここで言う重点プロジェクトは、まちの根幹になる将来目標人口を達成するためのプロジェクトということをもまず掲げて、わかりやすくしたいという意図だった。そこがしっかり伝わるように整理する。

委員長：交流人口と関係人口が増えると、なぜ定住人口が増えるのかというロジックを含めた記載が、もう1ページぐらい丁寧にあったほうが良い。ボールパークの開業による関係人口、交流人口がなぜ定住人口に行き着くのかというあたりも、重要な部分であるため、整理していただきたい。

4 その他

事務局：次回は令和2年2月14日10時からの開催、総合計画フォーラムは同年3月10日18時からを予定している。

5 閉会

委員長：(閉会)

会議録署名委員
